

## 2026年度 IoT/AIコース ソフトウェア一覧

コード	科目名	講師	ソフトウェア・環境
共通	-	-	Office (Excel、Word、PowerPoint) Zoom Googleアカウント (スプレッドシート・スライド・Google Colaboratory) Chat GPT (有料版を全受講生に配布)
K04	IoT・AIシステム・ ビジネス入門	増倉	TensorFlow Keras Anaconda (Python)
K05	SXビジネスモデル仮説検証	-	なし
K06	IoT・AIイノベーション	-	なし
K07	アーキテクチャ	久保秋	BridgePoint
K08	セキュリティ・プライバシー・法令	竹之内	Postgresql、ARX
K09	組込み・生成AIシステム		
K10	クラウドサービス・分散システム	-	前半：なし、後半：K14の項を参照
K11	ビッグデータマネジメント・ アナリティクス	石井	R
		土肥	SSHアクセスが可能な環境 (AWS上のインスタンスにSSHでシェルログインをして演習を行うため)
K12	推論・知識処理・自然言語処理	上田	SWI-Prolog
K13	機械学習	-	Google Colaboratory (Python) ※要Googleアカウント
K14	クラウド基盤構築演習	中島 佐々木	OpenStack TeraTerm
		新井	Node-RED <b>第5-6回演習はWindowsPCが必要 (通信環境設定のため)</b>
K15	無線通信・IoT通信・ センサネットワーク	竹岡	TeraTerm
		-	なし
K16	センサ	-	なし
K17	IoT・AIとシステムズアプローチ	全員	Slack (講師への質問やグループワークで使用) astah* (開講後ライセンス配布)
K18	深層学習	-	Google Colaboratory (Python) Anaconda Pytorch
K19	品質エンジニアリング	早水	NuSMV
		本田	R
K20	生成AIを活用したソフトウェア開発演習	坂本	
K21	AIエージェント開発演習	坂本	

### ソフトウェアのインストール方法

詳細は、履修登録後に参加できるLMSのコース (科目ごとのページ) に掲載します。

### Macの利用について

講義で使用するソフトウェアが対応していない場合があります (代表例：K09、K15)。

また、事務局からご案内するインストール方法も基本的にWindows向けとなります。

なお、特別なソフトや環境が必要でない科目への参加はMacでも問題ありません。

### 会社で受講する場合の注意点

社内パソコンを利用したり、社内ネットワーク下での受講を検討中の方は、各ソフトウェアインストールやアクセス等に問題がないか、必ず事前に社内のセキュリティ担当者へご相談ください。

参考として、過去の受講生から問い合わせがあった例は以下となります。

- ・専用サーバーへのVPN接続⇒K10/K14：国立情報学研究所のサーバーを使用)
- ・Googleアカウント⇒K07他：Googleスプレッドシート・スライド K13/18：Google Colaboratory)